

北関東最大級 熱処理ソリューション完成



きれいな工場から
生まれる信頼の品質

アジア熱処理技研

アジア熱処理技研(群馬県伊勢崎市)は群馬、栃木、茨城に工場を持つ北関東最大級の熱処理総合会社だ。「間違いない仕事は環境の整ったきれいな工場から生まれる」という星野博社長は、工場内外の環境美化に注力する。さらに事業承継によって規模の拡大にも力を入れている。モノづくりの基盤技術として欠かせない熱処理を担う「きれいな工場」づくりや経営戦略、手法などについて日刊工業新聞社の井水治博社長が聞いた。



アジア熱処理技研社長
星野 博氏

井水 2013年で創業45周年を迎えました。今日では、社員100人を有する、関東屈指の熱処理会社に成長しました。また、この間に、行き詰まった同業者を受け入れるなど、日本の熱処理技術を守り、絶やさないという強い意志で、業界をリードしています。

井水 2013年で創業45周年を迎えました。今日では、社員100人を有する、関東屈指の熱処理会社に成長しました。また、この間に、行き詰まった同業者を受け入れるなど、日本の熱処理技術を守り、絶やさないという強い意志で、業界をリードしています。

星野 68年(昭和43)に創業した会社で、いわば業界救済型の事業承継ともいえます。私が考える事業承継の基本は、事業を譲った経営者が余生を余裕を持って十分生活できるようにすることです。また、社員は全て面倒をみます。そのため、事業を引き継いでから軌道に乗るまでには最低でも2、3年はかかります。給与体系は当社に合わせるので従業員の所得は上がりません。こうした改善を行わないと、社員の心が離れて、士気が下がります。かえって損失になります。設備や工程管理などを見直せば必ず利益は生み出せるはずです。

また、創業以来、取り組んでいる「きれいな工場づくり」は、本社にとどまらず、他県の工場にも広がっています。業務工程を管理するシステムについても同様に、全社的に、EIT(情報技術)化を進めています。

井水 全社一丸となって行っている「きれいな工場づくり」のきっかけは何でしょうか。

星野 88年(昭和63)に創業する前から「きれいな工場づくり」を経営テーマに掲げていました。当時、私が入社した会社も例外ではありませんでした。私は研究開発を担当して、創立者の社長が研究室を設けて自由に勉強させてくれました。また、全国の「きれいな熱処理工場はブランドになります」。

井水 工場はきれいな工場づくりは、心や精神の掃除にもつながっているようにですね。日本一「きれいな熱処理工場はブランドになります」。

星野 やはり、きれいな環境は良い仕事をしようという心や精神につながります。熱処理の仕事は目に見えないので、例えば、顧客から預かった部品を1000個単位で熱処理加工します。そのうち抜き取り検査した部品の品質がOKならば、全品を出荷します。検査していない残りの部品にも当然責任を持ちます。きれいな工場ですっきりとした工程管理で仕事をするのが、取引先から「間違いない」と認識をいただけると思っています。

信念と情熱が実りはじめた 星野社長

きれいな工場はブランドになる 井水

井水 熱処理は極めて重要な技術ですが、業界の景況はいかがでしょうか。

星野 熱処理は自動車や精密機械、建機など、多種多様な製品の駆動部などの重要部分に必要です。いわば、熱処理はこれらの製品の「生命線」ともいえます。熱処理せずに部品を組み立てるとすぐ損傷してしまいます。適切な熱処理を施せば強度や耐久性が格段に増します。それだけ熱処理は重要なのです。しかし、業界が置かれている環境は厳しさを増しています。電料やガス料金が値上がりし、取引先の海外シフトが年々拡大しています。コストを下げないと海外に仕事を移管されます。これまでもコスト競争を続けており、さらなる原価低減は至難の業です。

星野 熱処理技術者の資格取得を全社で応援しています。生産だけでなく、接客部門も含めた全社員約100人のうち、技能士の資格取得したものは41人で、生産部門の半数を超えています。資格試験は座学や実技もあり、試験は落ちていい。落ちれば、合格した社員の2倍以上勉強することになりますから。

井水 若手社員の登用にも積極的ですが、その狙いは、星野 任せることでは成長すると思いません。私には若手社員を技能や経験に応じて係長や部長、工場長へとポストを昇格させるなど、社員が希望を持てる会社していく責任があります。この責任を

井水 最後は将来の展望をお聞かせください。

星野 設備面では材料を細かく分析する装置や組成を調べる高機能顕微鏡の導入を視野に入れています。まれにですが、熱処理する材料自体が不具合を抱えていることがあり、熱処理は材料の性質に

井水 熱処理は材料の性質に



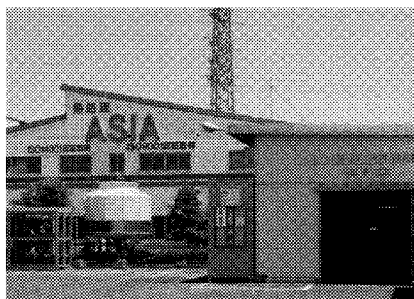
日刊工業新聞社社長
井水 治博

井水 最後は将来の展望をお聞かせください。

星野 設備面では材料を細かく分析する装置や組成を調べる高機能顕微鏡の導入を視野に入れています。まれにですが、熱処理する材料自体が不具合を抱えていることがあり、熱処理は材料の性質に

北関東を代表する総合熱処理メーカー アジア熱処理技研

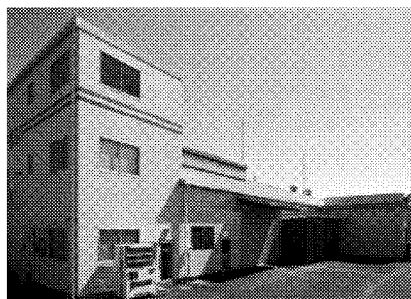
きれいな工場から生まれる信頼の品質



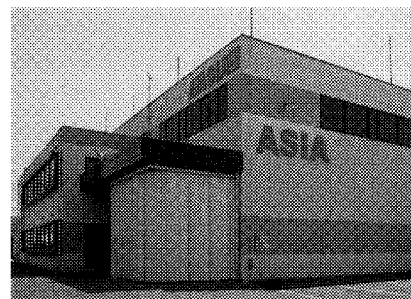
■本社第一工場
〒372-0854 群馬県伊勢崎市飯島町 540-2
TEL.0270-32-6321 FAX.0270-32-7607



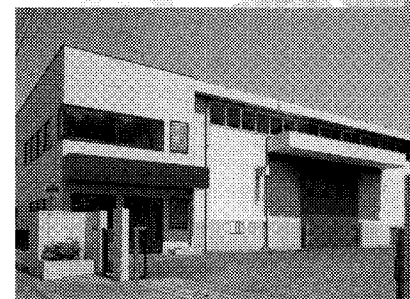
■本社第二工場
〒372-0854 群馬県伊勢崎市飯島町 540-18
TEL.0270-32-7100 FAX.0270-32-7102



■足利工場(吉田熱処理工業)
〒326-0021 栃木県足利市山川町 90-8
TEL.0284-41-7849



■栃木工場
〒322-0603 栃木県栃木市西方町本郷 621-1
TEL.0282-92-8818 FAX.0282-92-8817



■茨城工場
〒319-0102 茨城県小美玉市西郷地 60-1
TEL.0299-48-3020 FAX.0299-48-3045

《加工の種類》 ● 浸炭 ● 調質(焼入・焼戻し) ● 軟化 ● ホモ処理 ● 焼準 ● 焼鈍 ● 各種真空処理 ● 高周波焼入 ● 曲がり矯正 ● ショットブラスト ● バレル研磨

・熱処理技能士 41名 ・IT化による確かな物流・生産・品質管理



アジア熱処理技研株式会社